

野幌森林公園のカミキリムシ相

堀 繁久

Key Words

カミキリムシ科 (Cerambycidae)、鞘翅目 (Coleoptera)、動物相 (Fauna)、
生物インベントリー (Biodiversity inventory)、野幌森林公園 (Nopporo Forest Park)

1 はじめに

道立自然公園野幌森林公園（以下、野幌森林公園）は、江別市、北広島市、札幌市にまたがる面積2,053haの道立自然公園で、約1,600haのまとまった面積の森林が孤立的に残っている。この森林には周囲では見られなくなった様々な動植物が残っており、その多くを消失してしまった石狩低地帯の原生物相を残す貴重な森林である。

野幌森林公園の昆虫相の総合調査は、北海道開拓記念館が開館して間もない1974～1979年にかけて「野幌丘陵とその周辺の自然と歴史」の中で行われた昆虫相調査が最初と考えられる。その一連の調査の成果として坂本ほか（1975）「野幌森林公園の昆虫類 蜻蛉目」、坂本ほか（1976）「野幌森林公園の昆虫類 鱗翅目」、坂本ほか（1976）「野幌森林公園の昆虫類 鞘翅目」、坂本ほか（1977）「野幌森林公園の昆虫類 半翅目」が発表された。しばらく間が空いて、北海道開拓記念館の分野別研究2001年より「野幌森林公園の生物インベントリー調査」が行われ、その成果として、堀繁久（2002）「野幌森林公園の甲虫相調査」、堀繁久（2002）「野幌森林公園のゲンゴロウ相」、堀繁久（2002）「野幌森林公園の甲虫相調査」、堀（2003）「都市孤立林のオサムシ科甲虫群集の特性」、堀ほか（2003）「平地森林の生物インベントリー調査と環境指標種の検討」、永安ほか（2003）「野幌森林公園のトビケラ相」、永安ほか（2005）「野幌森林公園のトビケラ相II」、堀（2005a）「野幌森林公園へ侵入した外来昆虫」、堀（2005b）「森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本1（鞘翅目）」、堀・桜井（2006）「森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本2（鱗翅目）」、堀・広永（2007）「森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本3（双翅目）」、堀・山本（2008）「森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本4（半翅目）」、堀（2008）「森を飛ぶゴミムシと這うゴミムシ」、堀ほか（2008）「野幌森林公園の生物インベントリー調査」、堀ほか（2009）「森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標

本5（膜翅目）」、堀ほか（2011）「野幌森林公園の野鳥から確認されたシラミバエ」、堀（2012）「オサムシ科甲虫群集を利用した森林環境モニタリング」、堀（2013）「野幌森林公園で観察したウラキンシジミ幼虫の落下傘降下について」、堀・大野（2014）「西尾美明氏採集の野幌産甲虫標本について」が発表されている。

2015年からは北海道博物館として、「道民・地域との連携・協働による地域情報集積プロジェクト」の「野幌森林公園の生物インベントリー調査」を継続し、引き続き道立自然公園野幌森林公園の生物相と生態系の解明を進めてきている。

今回は、その成果として野幌森林公園カミキリムシ相をとりまとめる。

2 野幌のカミキリムシ研究小史

野幌森林公園のカミキリムシは、Matsushita（1933）「Beitrag zur Kenntris der Cerambyciden des Japonischen Reichs」の中で確認産地としてNopporoからムネツヤサビカミキリ、オオクロカミキリ、ホクチチビハナカミキリ、オオヨツスジハナカミキリ、オオクロハナカミキリ、モモボトハナカミキリ、マルガタハナカミキリ、アカハナカミキリ、カラカネハナカミキリ、キタセスジヒメハナカミキリ、シロオビチビヒラタカミキリ、シロトラカミキリ、クロトラカミキリ、エグリトラカミキリ、ウスイロトラカミキリ、ルリボシカミキリ、センノカミキリ、ニセビロウドカミキリ、ヒゲナガカミキリ、アトモンサビカミキリ、ハンノアオカミキリ、チチブニセリンゴカミキリ、ヤツボシカミキリ（ニセヤツボシカミキリの誤同定と考えられる）、ホソカミキリの23種を記録したのが最初の記録と考えられる。その後は、長瀬・石田（1970）が「札幌産 Beetles（甲虫類）について（II）カミキリムシ科」でヒゲシロホソコバナカミキリ、坂本ほか（1976）が「野幌森林公園の昆虫類III（鞘翅目）」の中でカミキリムシ科67種を記録した。

坂本ほかの記録種の内、以下のウスバカミキリ、コバナカミキリ、ノコギリカミキリ、テツイロハナカミキリ、ツヤケシハナカミキリ、フタスジハナカミキリ、カエデノヘリグロハナカミキリ、オオハナカミキリ、ヤツボシハナカミキリ、ヨツスジハナカミキリ、タケウチホソハナカミキリ、マツシタトラカミキリ、エゾトラカミキリ、チャイロチビヒラタカミキリ、アカネカミキリ、トウホクトラカミキリ、シラケトラカミキリ、キスジトラカミキリ、ホソトラカミキリ、ツマキトラカミキリ、ヘリグロベニカミキリ、ヒゲナガモモブトカミキリ、トゲバカミキリ、ケマダラカミキリ、フタオビアラゲカミキリ、ドイカミキリ、フタモンアラゲカミキリ、ヒトオビアラゲカミキリ、クリイロチビケブカカミキリ、ヒトオビチビカミキリ、シロオビチビカミキリ、タテスジゴマフカミキリ、カタシロゴマフカミキリ、イタヤカミキリ、クモガタケシカミキリ、シラオビゴマフケシカミキリ、アトモンマルケシカミキリ、キッコウモンケシカミキリ、ネジロカミキリ、ニイジマチビカミキリ、ナカジロサビカミキリ、トガリシロオビサビカミキリ、エゾサビカミキリ、アトジロサビカミキリ、シナカミキリ、シラホシカミキリ、キモンカミキリ、ニセヤツボシカミキリの48種が野幌森林公園から新たに記録された。以降、渡辺(1979)が「道東カミキリ採集行」でフタコブルリハナカミキリ、ケシカミキリ、田辺(1979)が「北海道の昆虫」でオオトラカミキリ、田辺(1980)が「続北海道の昆虫」でカタキハナカミキリ、森(1980)が「札幌近郊のカミキリムシについて」でベニバハナカミキリ、渡辺(1981)が「北海道に於けるカミキリムシの採集目録」でハイイロハナカミキリ、ホソコバナカミキリ、アオカミキリ、ヒメクロトラカミキリ、コジマヒゲナガコバナカミキリ、ゴマダラモモブトカミキリ、ホウノキトゲバカミキリ、エゾトゲムネカミキリ、クモノスモンサビカミキリ、カッコウカミキリ、セミスジコブヒゲカミキリ、シナノクロフカミキリ、ヒメヒゲナガカミキリ、チャボヒゲナガカミキリ、ムナグロリンゴカミキリ、ガロアケシカミキリ、斎藤(1983)が「1979～83年道内各地における蝶・甲虫の採集報告」でジャコウカミキリ、緒方・大桃(1985)が「北海道採集報告」でエゾナガヒゲカミキリ、ヤツメカミキリ、森ほか(1986)が「北海道産カミキリムシの分布(1)」でキヌツヤハナカミキリ、タテジマホソハナカミキリ、ブチヒゲハナカミキリ、青山(1986)が「灯火に飛来したカミキリムシ」でナカネアメイロカミキリ、ハンノキカミキリ、リンゴカミキリ、鈴木(1991)が「札幌市及びその周辺で採集した甲虫類」でチビハナカミキリ、石浜・国元(1994)が「北海道産カミキリムシ科採集記録」でオニホソコバナカミキリ、サドチビアメイロカミ

キリ、トワダムモンメダカカミキリ、カエデヒゲナガコバナカミキリ、チャイロホソヒラタカミキリ、アカネトラカミキリ、キンケトラカミキリ、フチグロヤツボシカミキリ、ミヤマチビコブカミキリ、ヘリグロチビコブカミキリ、ピックチビコブカミキリ、ヒメシラオビカミキリ、クリチビカミキリを記録している。堀(2005)が「森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本1(鞘翅目)」で、野幌森林公園に接して前身の林業試験場があった1908年から1953年までの45年間にわたって集積された野幌森林公園内で採集されたカミキリムシ科甲虫77種を記録した。採集年代はこれまでの記録と前後するがシロヘリトラカミキリ、ミドリカミキリ、ヨツボシカミキリ、コトラカミキリ、シラホシヒゲナガコバナカミキリ、ヒゲナガゴマフカミキリ、ナガゴマフカミキリ、ゴマフカミキリ、ビロウドカミキリ、シラフヨツボシヒゲナガカミキリの10種のカミキリムシを新たに記録した。江坂・大野(2009)は「ハクウンボクより得られた甲虫類数種の記録」でホソヒゲケブカカミキリを記録した。

3 調査地

調査は野幌森林公園とそれに接する地域で実施した(図1)。調査地は広葉樹が主体で、部分的にトドマツや他の針葉樹の人工林が植栽されている。公園面積は2,053haで、公園内には散策のための遊歩道が張り巡らされている。

4 調査方法

道立自然公園内における調査については、公園管理者である北海道博物館の許可を得て実施した。また、公園管理上遊歩道以外の通行は禁止されているため、調査で林内に立ち入る際は、国有林および道有林の入林承認を取得し、調査の腕章をつけて実施した。

昆虫相調査のため様々な昆虫調査手法を用いて、公園管理者の許可を得て実施した。

主な調査方法は以下の通り。

- ・GC: 一般採集。主に枯木や葉上のルッキングによる見つけ採り。
- ・PT:ピットフォールトラップ。直径60mmのプラスチックコップを地面に埋めた落とし穴式のトラップ。
- ・FIT: 衝突版トラップ。地表設置の透明アクリル板型とビニールシート型、空中用のアクリル板を十字にクロスされた吊下げ型を使用〔図2-6〕。
- ・MLT: マレーズトラップ。林内の谷底で実施〔図8〕。
- ・B-アセテート: ベンジルアセテートを使用し、サンケイ化学の白色誘引器を使用〔図7〕。

- ・ α ピネン: α ピネンとエタノールを使用し、サンケイ化学の黒色誘引器を使用。
- ・アカネコール: アカネコールを使用し、サンケイ化学の白色誘引器を使用。
- ・LT: 灯火採集。発電機と400W水銀灯で実施〔図9〕。
- ・SWP: 樹木の枝を捕虫網でスイーピング(掬い採り)。
- ・BT: 木の枝を棒で叩いて白布で受けて落ちてくる昆虫を採集するピーティング採集。

5 調査結果

カミキリムシの同定と種名等については、鈴木(2022)「日本列島の甲虫全種目録(2022年)」、日本鞘翅学会

(1984)「日本産カミキリ大図鑑」、大林・新里(2007)「日本産カミキリムシ」、藤田ほか(2018)「日本産カミキリムシ大図鑑(1)」、林ほか(1984)「原色日本甲虫図鑑IV」、北海道環境生活部自然環境局(2019)【種・亜種目録】北海道のコウチュウを参考にした。

データは野幌森林公園から記録ある種に関しては、発表者名と発表年を記してある。調査により採集した種に関しては、雌雄または個体数、採集年月日、採集方法、採集地、採集者名、その他の順で示した。なお、採集者名がないものは全て筆者採集である。種名の後ろに*印のある種は、文献記録がなく、野幌森林公園から初めて記録する種を示す。



図1 野幌森林公園調査位置図

野幌森林公園から記録されたカミキリムシ

Family CERAMBYCIDAE Latreille, 1802 / カミキリムシ科
Subfamily Prioninae Latreille, 1803 / ノコギリカミキリ亜科
Tribe Aegosomatini Thomson, 1862

Aegosoma sinicum sinicum (White, 1853) ウスバカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 3. IX. 2003 (LT) 大沢園地; 1♂, 29. VII. 2017 (LT) 中央線南部

Tribe Anacolini Thomson, 1858

Psephactus remiger remiger Harold, 1879 コバネカミキリ

坂本ほか (1976)、鈴木 (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 8. VIII. 2000 (B-アセテート) 中央線南部; 1♂, 22. VIII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近

Tribe Prionini Latreille, 1804

Prionus insularis insularis Motschulsky, 1858 ノコギリカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、緒方・大桃 (1985)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 8. VIII. 2000 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂・1♀, 28. VIII. 2008 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♀, 21. VIII. 2012 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 14. VIII. 2015 (GC) 北海道開拓記念館付近

Subfamily Lepturinea Latreille, 1803 / ハナカミキリ亜科

Tribe Encyclopini LeConte, 1874

Encyclops olivacea Bates, 1884 テツイロハナカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♂, 13. VI. 2000 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 6. VI. 2002 (FIT) 中央線南部; 1♀, 3. VI. 2003 (FIT) 下野幌線; 1♀, 18. VI. 2003 (LT) 大沢園地; 1♂, 29. V. 2012 (GC) 北海道開拓記念館付近

Tribe Lepturini Latreille, 1803

Alosterna chalybeella (Bates, 1884) チビハナカミキリ

鈴木 (1991)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 30. VI. 2000 (LT) 大沢園地、桜井正俊採集; 1♂, 5. VII. 2000 (B-アセテート) 大沢口; 1♀, 19. VII. 2000 (B-アセテート) 大沢口; 1♀, 30. V. 2002 (FIT) 中央線南部

Alosterna tabacicolor erythropus (Gebler, 1841) ホクチチビハナカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 12. VI. 2002 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 2exs., 24. VI. 2006 (MLT) 開拓の沢線

Anastrangalia scotodes scotodes (Bates, 1873) ツヤケシハナカミキリ

坂本ほか (1976)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 11. VII. 2000 (B-アセテート) 大沢口; 2♀♀, 23. VI. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ; 1♂, 7. VIII. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ; 1♂, 6. VI. 209 (GC) 大沢口; 1♂, 7. VI. 209 (GC) 桂コース

Corennys sericata Bates, 1884 キヌツヤハナカミキリ

森ほか (1986)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

Etorofus (Nakanea) vicaria (Bates, 1884) フタスジハナカミキリ

坂本ほか (1976)、田辺 (1980)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 3. VIII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近、7exs.23.VII.2004 (開拓大橋吊下げFIT)、38exs.30.VII.2004 (開拓大橋吊下げFIT)、13exs.8.VIII.2004 (開拓大橋吊下げFIT)

Eustrangalis distenioides Bates, 1884 カエデノヘリグロハナカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 7. VI. 2003 (B-アセテート) 下野幌線; 1♂, 7. VI. 2017 (SWP) 野幌総合運動公園 ナシの花に訪花 [図18a]

Kanekoa azumensis (Matsushita & Tamanuki, 1942) ミヤマルリハナカミキリ*

1♀, 21. VI. 2003 (FIT) 中央線南部 [図18b]

Konoa granulata (Bates, 1884) オオハナカミキリ

坂本ほか (1976)、森 (1980)、緒方・大桃 (1985)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 27. VII. 2001 (GC) 桂コース [図18c]

Leptura annularis mimica Bates, 1884 ヤツボシハナカミキリ

坂本ほか (1976)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 23. VI. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ

Leptura latipennis (Matsushita, 1933) ハネビロハナカミキリ*

1♀, 25. VI. 1987 (GC) 北海道開拓の村; 2♀♀, 15. VI. 1991 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 16. VI. 1991 (GC) 北海道開拓の村; 1♂・2♀♀, 21. VI. 1991 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 27. VI. 1991 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 16. VII. 1999 (GC) 林木育種場; 1♀, 12. VI. 2009 (GC) 瑞穂連絡線; 1♀, 24. VI. 2014 (SWP) ふれあいコースのミズキを訪花 [図18d]

Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata (Motschulsky, 1861) ヨツスジハナカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 28. VII. 1990 (GC) 北海道開拓の村 [図18e]、3exs.16.VII.2004 (開拓大橋吊下げFIT)、13exs.23.VII.2004 (開拓大橋吊下げFIT)、13exs.30.VII.2004 (開拓大橋吊下げFIT)、6exs.8.VIII.2004 (開拓大橋吊下げFIT)、1♂1♀, 23. VII. 2008 (GC) ふれあいコースでノリウツギを訪花 [図10]

野幌森林公園では、ノリウツギ、ツルアジサイ、ヨツバヒヨドリなど夏場の様々な花に集まる個体数の多いハナカミ

キリで、2004年に実施した樹冠の上部に設置したFIT調査でも多数の個体が確認された。2010年頃より、目撃する頻度が減少してきている。

Macroleptura regalis (Bates, 1884) オオヨツスジハナカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、森 (1980)、渡辺 (1981)、緒方・大桃 (1985)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 12. VIII. 2008 (GC) 北海道百年記念塔付近; 1♂, 7. VII. 2009 (GC) 大沢口; 1♂, 4. VII. 2012 (GC) 北海道開拓記念館付近

Macroleptura thoracica Creutzer, 1799 オオクロハナカミキリ

Matsushita (1933)、緒方・大桃 (1985)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 29. VII. 1990 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 23. VII. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ

Oedecnema gebleri Ganglbauer, 1889 モモブトハナカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、田辺 (1980)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 6. VI. 2009 (GC) 大沢口 [図18f]; 1♂, 10. VI. 2012 (GC) 桂コース; 1♀, 15. VI. 2014 (GC) 桂コース

Pachypidonia bodemeyeri (Pic, 1934) ヒゲブトハナカミキリ

藤沢 (1979)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♂, 28. VII. 2001 (樹洞) 瑞穂連絡線; 2♂♂, 3. VIII. 2008 (樹洞) 瑞穂連絡線

Pachytodes cometes (Bates, 1884) マルガタハナカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 2. VIII. 1990 (GC) 北海道開拓の村、; 1♀, 14. VII. 2010 (GC) 中央線南部でエゾアジサイに訪花 [図11]

Paranaspia anaspidoides (Bates, 1873) ベニバハナカミキリ

森 (1980)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

Parastrangalis tenuicornis (Motschulsky, 1862) タテジマホソハナカミキリ

森ほか (1986)、青山 (1986)、青山 (1987)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♂, 17. VII. 2008 (GC) 北海道百年記念塔付近 [図18g]

札幌近郊ではかなり希少なカミキリムシである。発見した♂個体は、遊歩道脇の下草に静止していたのを偶然発見した個体。

Pedostrangalia (Neosphenalia) femoralis (Motschulsky, 1861) カタキハナカミキリ

田辺 (1980)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♂, 25. VI. 1987 (GC) 北海道開拓の村

Stictoleptura (Aredolpona) succedanea (Lewis, 1879) アカハナカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 25. VII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♂, 5. VIII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近

Stictoleptura (Variileptura) variicornis (Dalman, 1817) ブチヒゲハナカミキリ

森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

Strangalia takeuchii Matsushita & Tamanuki, 1935 タケウチホソハナカミキリ

坂本ほか (1976)、森 (1980)、渡辺 (1981)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。過去の文献記録は多く残されているが、筆者がこれまで実施してきている野外調査では確認できなかった。

Tribe Rhagiini Kirby, 1848

Gaurotes (Paragaurotes) doris Bates, 1884 カラカネハナカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 31. V. 2000 (GC) ふれあいコース; 1♂, 18. VI. 2003 (GC) 登満別園地; 1♀, 23. VI. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ

Pidonia (Cryptopidonia) kurosawai Ohbayashi & Hayashi, 1960 キタセスジヒメハナカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 31. V. 2000 (GC) ふれあいコース; 1♂, 6. VI. 2001 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 16. VI. 2001 (FIT) 下野幌線; 10exs., 24.

VI. 2006 (MLT) 開拓の沢線

Rhagium (Rhagium) japonicum Bates, 1884 ハイイロハナカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 24. V. 2000 (α ピネン) 中央線南部; 1♂, 25. V. 2000 (GC) 瑞穂連絡線

Stenocorus (Eutoxotus) caeruleipennis (Bates, 1873) フタコブルリハナカミキリ

渡辺 (1979)、森ほか (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 23. VI. 2004 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♀, 12. VI. 2007 (FIT) 下野幌線

Subfamily Spondylinae Audinet-Serville, 1834 / クロカミキリ亜科

Tribe Asemmini Thomson, 1863

Arhopalus rusticus (Linnaeus, 1758) ムネツヤサビカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

Asemum punctulatum Blessig, 1872 ヒメマルクビヒラタカミキリ*

1♀, 5. VII. 2000 (α ピネン) 中央線南部 [図18h]; 1♀, 19. VII. 2000 (α ピネン) 中央線南部

Asemum striatum (Linnaeus, 1758) オオマルクビヒラタカミキリ*

1♂, 16. VII. 1999 (GC) 林木育種場; 1♀, 5. VI. 2002 (GC) 下野幌線 [図18i]; 1♀, 12. VI. 2008 (GC) 北海道開拓記念館付近のトドマツ幹で産卵行動中 [図12]

Megasemum quadricostulatum Kraatz, 1879 オオクロカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、緒方・大桃 (1985)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂・1♀, 8. VIII. 2000 (α ピネン) 中央線南部; 1♀, 1. VIII. 2009 (GC) 北海道開拓記念館付近; 3♀, 29. VII. 2017 (LT) 中央線南部

Subfamily Necydalinae Latreille, 1826 / ホソコバネカミキリ亜科

Necydalis (Necydalis) gigantea gigantea Kano, 1933 オニホソコバネカミキリ

石浜・国元 (1994) により記録されている。

Necydalis (Necydalisca) odai Hayashi, 1951 ヒゲシロホソコバネカミキリ

長瀬・石田 (1970)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

Necydalis (Necydalisca) pennata Lewis, 1879 ホソコバネカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、堀 (2002) により記録されている。

1♀, 13. VII. 2001 (GC) 北海道開拓記念館付近 [図18j]; 1♀, 15. VII. 2001 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 30. VI. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ [図18k]

GCの1メスは、北海道博物館の職員通用口の玄関灯の下にひっくり返って死んでいた個体で、見つけたときはホソカミキリの死体だと思って、表に返してみても大型のエベニナ型の本種と判り非常に驚いた。

Subfamily Cerambycinae Latreille, 1803 / カミキリ亜科

Tribe Anaglyptini Lacordaire, 1869

Anaglyptus (Aglaophis) colobotheoides (Bates, 1884) シロヘリトラカミキリ

堀 (2005) により記録されている。

Anaglyptus (Anaglyptus) matsushitai Hayashi, 1955 マツシタトラカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 19. VI. 1991 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 3. VI. 2003 (SWP) 下野幌線; 1♂, 11. VI. 2004 (LT) 大沢園地; 1♂, 20. VII. 2009 (GC) 北海道百年記念塔付近

Oligoenoplus rosti rosti (Pic, 1911) エゾトラカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♂, 29. V. 2002 (FIT) 中央線南部; 1♀, 28. V. 20003 (FIT) 北海道開拓記念館東側

Parachlytus excultus Bates, 1884 シロトラカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂・2♀♀, 21. V. 1987 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 22. V. 2011 (GC) 北海道百年記念塔付近でオオカメノキを訪花〔図13〕

野幌森林公園では春早い季節に出現するカミキリムシで、オオカメノキの花に良く集まる。

Tribe Callichromatini Swainson, 1842

Aromia moschata orientalis Plavilstshikov, 1933 ジャコウカミキリ

斎藤 (1983)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 13. VIII. 2003 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 23. VIII. 2003 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 14. VIII. 2007 (GC) 大沢口、濱本真琴採集; 1♂, 15. VIII. 2012 (GC) 北海道開拓記念館付近〔図18I〕

Chloridolum (Leontium) viride (Thomson, 1864) ミドリカミキリ

堀 (2005) により記録されている。

Schwarzerium quadricollis (Bates, 1884) アオカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

Tribe Callidiini Kirby, 1838

Callidiellum rufipenne (Motschulsky, 1862) ヒメスギカミキリ*

1♀, 8. VI. 2005 (GC) 登満別園地、澄川大輔採集; 1♂, 25. III. 2014 (GC) 北海道開拓記念館内〔図18m〕

Phymatodes (Phymatodellus) infasciatus (Pic, 1935) チャイロチビヒラタカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

Phymatodes (Phymatodes) testaceus (Linnaeus, 1758) チャイロホソヒラタカミキリ

石浜・国元 (1994) により記録されている。

Poecilium albicinctum Bates, 1873 シロオビチビヒラタカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、田辺 (1980)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 29. VI. 2000 (PT) 北海道開拓記念館東側; 1♀, 22. VI. 2005 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 11. V. 2006 (ヤマブドウ枯れツルより羽化) 北海道開拓記念館付近

Poecilium maaki viarius (Danilevsky, 1988) アカネカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 5. VI. 2002 (GC) 下野幌線; 1♀, 22. VI. 2005 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 11. V. 2006 (ヤマブドウ枯れツルより羽化) 北海道開拓記念館付近

Tribe Callidiopini Lacordaire, 1889

Stenygrinum quadrinotatum Bates, 1873 ヨツボシカミキリ

堀 (2005) により記録されている。文献記録の標本データは、「大正六年七月六日、Nopporo、T.Ono」となっており、確認できた野幌産カミキリムシ標本としては最も古いものの一つである。ヨツボシカミキリの北海道の記録は少

なく、戦前に浦河町、札幌市、苫小牧市、七飯村の記録があり、戦後の記録は恵山、上磯町の記録があるが僅か数例でしかも50年以上前の記録であり、近年は道内では全く記録の無い種である（棟方 1961；函館市立博物館 1986；佐々木ほか 1993）。本種は全国に分布しており本州以南では1970年代までは各地に普通に生息していた里山に生息する種であるが、やはり近年はどの地方でも姿を消してきており、その減少の要因は不明である。野幌森林公園で継続している詳細な昆虫調査においても全く確認されず、本種も野幌森林公園から絶滅した可能性が高い。

Tribe Clytini Mulsant, 1842

Brachyelytus singularis Kraatz, 1879 アカネトラカミキリ

石浜・国元（1994）、堀（2005）により記録されている。

Chlorophorus diadema inhisutus Matsushita, 1934 クロトラカミキリ

Matsushita（1933）、坂本ほか（1976）、佐々木ほか（1993）、石浜・国元（1994）、堀（2005）により記録されている。

1♀, 23. VII. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ

Chlorophorus japonicus (Chevrolat, 1863) エグリトラカミキリ

Matsushita（1933）、坂本ほか（1976）、渡辺（1981）、佐々木ほか（1993）、石浜・国元（1994）により記録されている。

1♀, 31. VII. 1990 (GC) 北海道開拓の村; 1♂, 7. VIII. 2002 (GC) トド山口

Chlorophorus tohokensis Hayashi, 1968 トウホクトラカミキリ

坂本ほか（1976）、渡辺（1979）、佐々木ほか（1993）、石浜・国元（1994）により記録されている。

Clytus auripilis Bates, 1884 キンケトラカミキリ

石浜・国元（1994）、堀（2005）により記録されている。 1♀, 20. V. 2007 (GC) ふれあいコース

Clytus melaenus Bates, 1884 シラケトラカミキリ

坂本ほか（1976）、佐々木ほか（1993）、石浜・国元（1994）、堀（2005）により記録されている。

Cyrtoclytus caproides caproides (Bates, 1873) キスジトラカミキリ

坂本ほか（1976）、佐々木ほか（1993）、石浜・国元（1994）、堀（2005）により記録されている。

1♂・1♀, 27. VI. 1990 (GC) 北海道開拓の村; 1♂・1♀, 23. VII. 1990 (GC) 北海道開拓の村; 1♂, 19. VII. 2000 (αピネン) 大沢口; 1♀, 16. VI. 2001 (GC) 下野幌線; 1♀, 24. VI. 2014 (GC) ふれあいコース

Plagionotus pulcher (Blessig, 1872) コトラカミキリ

堀（2005）により記録されている。文献記録の標本データは、「1951年7月19日、H. Shinohara採集」。以降、野幌からの記録はない。近年、石狩低地帯周辺では記録が激減しているカミキリムシの一つ。

Rhaphuma diminuta diminuta (Bates, 1873) ヒメクロトラカミキリ

渡辺（1981）、佐々木ほか（1993）、石浜・国元（1994）により記録されている。

3♀♀, 17. V. 2001 (GC) 大沢園地

Rhaphuma xenisca (Bates, 1884) ホソトラカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、鈴木 (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。 1♀, 2. VIII. 1990 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 26. VII. 2000 (B-アセテート) 大沢口; 1♂, 7. VIII. 2002 (GC) トド山口; 1♀, 30. VII. 2004 (アカネコール) 開拓大橋吊下げ

Xylotrechus (Ootora) villioni (Villard, 1892) オオトラカミキリ

田辺 (1979)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♂, 16. VIII. 2001 (GC) 桂コース、野村昭英採集; 1♀, 3. IX. 2009 (GC) 北海道百年記念塔付近 [図18n]

野村昭英氏採集のオスは遊歩道に弱って落ちていたものを拾得した個体である。堀の採集したメスは、遊歩道脇の足元の低いヤナギ科植物の葉上に止まっていた個体で、すぐ脇にトドマツがあった。季節的に衰弱して下草に下りてきた個体と考えられる。

Xylotrechus (Xyloclytus) chinensis chinensis Chevrolat, 1852 トラフカミキリ*

1♂, 14. VIII. 2007 (GC) 桜沢の池、大野雅英採集 [図18o]; 1♂・1♀, 31. VIII. 2008 (GC) 桜沢の池のヤマグワで交配中 [図14]

盛夏にやや衰弱したヤマグワの幹を徘徊している個体を確認している。

Xylotrechus (Xylotrechus) clarinus Bates, 1884 ツマキトラカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 23. VII. 1990 (GC) 北海道開拓の村

Xylotrechus (Xylotrechus) cuneipennis (Kraatz, 1879) ウスイロトラカミキリ

Matsushita (1933)、長瀬・石田 (1970)、坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 28. VII. 1990 (GC) 北海道開拓の村; 1♂, 26. VII. 2000 (α ピネン) 中央線南部; 1♀, 2. VIII. 2006 (MLT) 開拓の沢線

Tribe Molorchini Gistel, 1857

Glaphyra (Glaphyra) ishiharai (Ohbayashi, 1936) カエデヒゲナガコバネカミキリ

石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 29. V. 2001 (GC) トド山口; 1♂, 3. VI. 2003 (SWP) 下野幌線 シウリザクラ; 1♂, 5. VI. 2003 (SWP) 下野幌線 シウリザクラ; 2♂♂, 18. V. 2021 (SWP) 野幌運動公園 ナシ

Glaphyra (Glaphyra) kojimai (Matsushita, 1939) コジマヒゲナガコバネカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

Molorchus minor fuscus Hayashi, 1955 シラホシヒゲナガコバネカミキリ

堀 (2005) により記録されている。

1♀, 10. VI. 2012 (GC) 桂コース [図18p]

Tribe Oabriini Mulsant, 1845

Obrium nakanei K. Ohbayashi, 1959 ナカネアメイロカミキリ

青山 (1986)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♀, 30. VII. 2004 (アカネコール) 開拓大橋吊下げ

Obrium obscuripenne takakuwai Niisato, 2006 サドチビアメイロカミキリ

石浜・国元 (1994) により記録されている。

Stenhomalus (Stenhomalus) japonicus (Pic, 1904) トワダムモンメダカカミキリ

石浜・国元 (1994) により記録されている。

3♂♂, 10. VII. 2019 (GC) 北海道博物館付近、ニガキの葉裏に止まっていた個体を見つけ採り。

Tribe Rosaliini Fairmaire, 1868

Rosalia (Rosalia) batesi Harold, 1877 ルリボシカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 24. VII. 1987 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 11. VIII. 1989 (GC) 北海道開拓の村; 1♂・1♀, 4. VIII. 1999 (GC)

ふれあいコース; 1♂, 23. VII. 2007 (GC) 北海道開拓記念館内、池田貴夫採集

Tribe Trachyderini Dupont, 1840

Purpuricenus (Sternoplistes) spectabilis Motschulsky, 1858 ヘリグロベニカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 5. VII. 2000 (B-アセテート) 大沢口; 1♀, 5. VI. 2003 (GC) 下野幌線

Subfamily Lamiinae Latreille, 1826 / フトカミキリ亜科

Tribe Acanthocinini Blanchard, 1846

Acanthocinus orientalis K. Ohbayashi, 1939 ヒゲナガモモフトカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、緒方・大桃 (1985)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 16. VII. 2002 (LT) 下野幌線

Leiopus stillatus (Bates, 1884) ゴマダラモモフトカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

Ostedes (Ostedes) sapporensis (Matsushita, 1933) ホウノキトゲバカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

Rondibilis (Rondibilis) saperdina (Bates, 1884) トゲバカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

Sciades (Miaenia) tonsus (Bates, 1873) ケシカミキリ

渡辺 (1979)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♀, 15. VII. 2014 (GC) ふれあいコース ナナカマド

Tribe Acanthoderini Thomson, 1863

Oplosia suvorovi (Pic, 1914) エゾトゲムネカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 25. VII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近

Tribe Agapanthiini Mulsant, 1840

Agapanthia (Epoetes) daurica daurica Ganglbauer, 1884 ケマダラカミキリ

坂本ほか (1976)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

Tribe Ancyronotini Lacordaire, 1870

Palimna liturata liturata (Bates, 1884) ヒゲナガゴマフカミキリ

堀 (2005) により記録されている。

Tribe Apodasyini Lacordaire, 1877

Arhopaloscelis nipponensis (Pic, 1932) フタオビアラゲカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 16. VII. 1999 (GC) 林木育種場; 1♀, 4. VII. 2001 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 10. VII. 2002 (GC) ふれあいコース; 1♂, 16. VII. 2002 (LT) 下野幌線; 1♀, 2. VIII. 2006 (MLT) 開拓の沢線; 1♂, 15. VI. 2014 (GC) ふれあいコース ナナカマド; 1♂, 21. VI. 2016 (GC) ふれあいコース ナナカマド

Clytosemia pulchra Bates, 1884 ジュウジクロカミキリ*

1♀, 21. VI. 2016 (GC) ふれあいコース。確認個体は非常に黒化した変異個体。[写真18q]

Eupogoniopsis tenuicornis (Bates, 1884) ホソヒゲケブカカミキリ

江坂・大野 (2009) により記録されている。発表個体のうち2頭は筆者の手元にあるので、データを記しておく。

1♀, 8. VIII. 2007 (BT) 登満別線、江坂真弥採集; 1♂, 21. VI. 2008 (材採集) 登満別線、江坂真弥採集、ハクウンボクより羽脱。

Graphidessa venata venata Bates, 1884 クモノスモンサビカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♂, 26. II. 2003 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♂, 3. VI. 2003 (GC) 北海道開拓記念館付近

Miccolamia (Isomiccolamia) glabricula glabricula Bates, 1884 ミヤマチビコブカミキリ

石浜・国元 (1994) ではチビコブカミキリ針葉樹型と表記されている。Hasegawa・Ohbayashi (2001) により、日本産チビコブカミキリが整理されて上記学名と和名となった。その際、野幌産の標本が論文に使われている。

Miccolamia (Isomiccolamia) takakuwai M. Hasegawa & N. Ohbayashi, 2001 ヘリグロチビコブカミキリ

石浜・国元 (1994) ではチビコブカミキリ標準型と表記されている。Hasegawa・Ohbayashi (2001) により、日

本産チビコブカミキリが整理されて上記学名と和名となった。その際、野幌産の標本が論文に使われている。

Miccolamia (Isomiccolamia) tuberculata (Pic, 1918) ピックチビコブカミキリ

石浜・国元 (1994) ではチビコブカミキリ黒色型と表記されている。

1♂, 1. X. 2006 (MLT) 開拓の沢線

Hasegawa・Ohbayashi (2001) により、日本産チビコブカミキリが整理されて上記学名と和名となった。その際、野幌産の標本が論文に使われている。

Miccolamia (Miccolamia) cleroides Bates, 1884 カッコウカミキリ

渡辺 (1981)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 2. VII. 2003 (FIT) ふれあいコース

Mimectatina divaricata divaricata (Bates, 1884) ドイカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 10. IV. 2002 (FIT) 北海道開拓記念館東側 [図18r]; 1♀, 20. V. 2007 (GC) ふれあいコース; 1♂, 19. X. 2013 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 15. VII. 2014 (GC) ふれあいコース ナナカマド

Rhodopina lewisii lewisii (Bates, 1873) セミスジコブヒゲカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♂・1♀, 23. VII. 2017 (GC) ふれあいコース; 2♂♂・1♀, 21. VII. 2021 (GC) ふれあいコース [図18s]

Rhopaloscelis maculatus Bates, 1877 フタモンアラゲカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

2♂♂・1♀, 10. VII. 2002 (GC) ふれあいコース

Rhopaloscelis unifasciatus Blessig, 1873 ヒトオビアラゲカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 22. VI. 2005 (GC) 野幌総合運動公園; 1♂, 15. VI. 2014 (GC) ふれあいコース

Terinaea atrofusca Bates, 1884 クリイロチビケブカカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 15. VIII. 2001 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♀, 16. VII. 2002 (LT) 下野幌線; 1♀, 25. VII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近

Tribe Apomecynini Thomson, 1870

Asaperda agapanthina Bates, 1873 シナノクロフカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

Sybra (Microzonata) kuri Ohbayashi & Hayashi, 1962 クリチビカミキリ

石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 26. VII. 2000 (B-アセテート) 中央線南部; 1♂, 28. VII. 2003 (ミズナラ SWP) 下野幌線、澄川大輔採集

Sybra (Sybra) unifasciata Fujimura, 1956 ヒトオビチビカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1979)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。
1♂, 10. VII. 2002 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 3. VIII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 5. VIII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♂, 24. VI. 2014 (GC) ふれあいコース [図15]; 2♂♂, 21. VI. 2016 (GC) ふれあいコース [図18t]

一般に個体数の少ないカミキリムシとされているが、野幌森林公園では比較的良く見かけるカミキリムシである。遊歩道脇のナナカマドの衰弱木で得られることが多い。

Sybra (Sybrodiboma) subfasciata subfasciata (Bates, 1884) シロオビチビカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♂, 31. VIII. 2006 (MLT) 開拓の沢線; 1♀, 31. VIII. 2008 (GC) 登満別園地; 1♀, 3. IX. 2009 (GC) 北海道百年記念塔付近

Tribe Mesosini Mulsant, 1843

Mesosa (Aplocnemia) longipennis Bates, 1873 ナガゴマフカミキリ

堀 (2005) により記録されている。

1♀, 20. VIII. 2013 (GC) ふれあいコース; 1♂, 1. VIII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近、水島未記採集 [図18u]

Mesosa (Aplocnemia) senilis Bates, 1884 タテスジゴマフカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 2. VIII. 1990 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 7. VIII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♂, 18. VIII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♂, 15. VI. 2015 (GC) ふれあいコース

Mesosa (Mesosa) japonica Bates, 1873 ゴマフカミキリ

堀 (2005) により記録されている。

Mesosa (Perimesosa) hirsuta hirsute Bates, 1884 カタシロゴマフカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 28. VII. 1990 (GC) 北海道開拓の村; 1♀, 3. IX. 2003 (LT) 大沢園地; 3♂♂・1♀, 14. VII. 2014 (GC) ふれあいコース

Tribe Monochamini Gistel, 1854

Acalolepta fraudatrix fraudatrix (Bates, 1873) ビロウドカミキリ

堀 (2005) により記録されている。

1♂, 20. VIII. 2000 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♀, 3. VIII. 2009 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 1. VIII. 2007 (GC) 大沢コース、濱本真琴採集

Acalolepta luxuriosa luxuriosa (Bates, 1873) センノキカミキリ

Matsushita (1933)、鈴木 (1976)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

Acalolepta sejuncta sejuncta (Bates, 1873) ニセビロウドカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、石浜・国元 (1994)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 20. VIII. 2000 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♀, 3. VIII. 2009 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 1. VIII. 2007 (GC) 大沢コース、濱本真琴採集

Anoplophora malasiaca (Thomson, 1865) ゴマダラカミキリ*

1♂, 20. VIII. 2000 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 22. VII. 2007 (GC) 大沢口、濱本真琴採集 [図18v]; 1♀, 1. VIII. 2007 (GC) 大沢コース、濱本真琴採集; 1♀, 3. VIII. 2009 (GC) 北海道開拓記念館付近

非常に大型で目立つカミキリムシであるが、過去の文献には記録がない。野幌森林公園では本調査を開始した1980年代後半には全く見ることが無かったが、2000年頃より目に付くようになり、近年は普通に見かけるカミキリムシとなってきている。

Mecynippus pubicornis Bates, 1884 イタヤカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♂, 15. VII. 2001 (FIT) 北海道開拓記念館東側

Monochamus (Monochamus) grandis Waterhouse, 1881 ヒゲナガカミキリ

Matsushita (1933)、長瀬・石田 (1970)、坂本ほか (1976)、緒方・大桃 (1985)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 14. VIII. 2002 (LT) 中央線南部; 1♀, 24. VII. 2007 (GC) 北海道開拓記念館内; 1♀, 5. VIII. 2009 (GC) 北海道百年記念塔付近

Monochamus (Monochamus) rosenmuelleri (Cederhjelm, 1798) シラフヨツボシヒゲナガカミキリ

堀 (2005) により記録されている。

Monochamus (Monochamus) subfasciatus subfasciatus (Bates, 1873) ヒメヒゲナガカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 21. VI. 2016 (GC) ふれあいコース

Uraecha bimaculata bimaculata Thomson, 1864 ヤハズカミキリ*

1♂, 29. VIII. 2007 (GC) 北海道百年記念塔付近、ミズナラの枯れ枝よる採集。[図18w]

Xenicotelia pardalina (Bates, 1884) チャボヒゲナガカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 10. VII. 2002 (GC) ふれあいコース

Tribe Phytoeciini Mulsant, 1843

Nupserha sericans (Bates, 1884) ムネグロリンゴカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♀, 26. VII. 2000 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 2. VIII. 2000 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 23. VIII.

2000 (FIT) 百年橋吊下げ; 1♂, 15. VIII. 2006 (MLT) 開拓の沢線

Oberea (Oberea) japonica (Thunberg, 1787) リンゴカミキリ

青山 (1986)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♂, 1. III. 1996 (ナナカマド枝より羽化) ふれあいコース; 1♀, 5. III. 1996 (ナナカマド枝より羽化) ふれあいコース [図18x]; 1♀, 29. IV. 1996 (ナナカマド枝より羽化) ふれあいコース; 1♀, 16. VII. 2004 (LT) 下野幌線; 1ex., 30. V. 2015 (ナナカマド枝を切断) ふれあいコース [写真16]

北海道ではかなり希少なカミキリムシである。野幌森林公園では比較的若いナナカマドに発生しており、鉛筆から指くらいの太さの枝に食入し、晩秋に枝先を斜めに切り落とし、その枝の基部側の切断面を木屑で蓋をして、中で前蛹として越冬するのを確認している。灯火への飛来も確認した。

Tribe Pogonocherini Mulsant, 1840

Exocentrus fasciolatus Bates, 1873 クモガタケシカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

Exocentrus galloisi Matsushita, 1933 ガロアケシカミキリ

渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♀, 30. VII. 2004 (アカネコール) 開拓大橋吊下げ

Exocentrus guttulatus guttulatus Bates, 1873 シラオピゴマフケシカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

Exocentrus lineatus Bates, 1873 アトモンマルケシカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 28. VII. 1991 (GC) 北海道開拓の村

Exocentrus testudineus Matsushita, 1931 キッコウモンケシカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 28. VII. 1991 (GC) 北海道開拓の村

Pogonocherus fasciculatus costatus Motschulsky, 1859 ヒメシラオビカミキリ

石浜・国元 (1994) により記録されている。

Pogonocherus seminiveus Bates, 1873 ネジロカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 11. VII. 2019 (GC) ふれあいコース

Tribe Pteropliini Thomson, 1862

Egesina (Nijimaia) bifasciana bifasciana (Matsushita, 1933) ニイジマチビカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 16. VII. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ

Pterolophia (Ale) jugosa jugosa (Bates, 1973) ナカジロサビカミキリ

坂本ほか (1976)、田辺 (1979)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。
1♂, 16. VII. 2004 (FIT) 開拓大橋吊下げ

Pterolophia (Pterolophia) caudata caudata (Bates, 1873) トガリシロオビサビカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。
1♀, 25. VII. 2004 (GC) 北海道開拓記念館付近

Pterolophia (Pterolophia) granulate (Motschulsky, 1866) アトモンサビカミキリ

Matsushita (1933)、佐々木ほか (1993) により記録されている。
1♀, 19. VII. 2000 (FIT) ふれあいコース

Pterolophia (Pterolophia) tsurugiana (Matsushita, 1934) エゾサビカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。
1♂・1♀, 14. VIII. 2002 (LT) 中央線南部; 1♀, 23. VI. 2006 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♂, 2. VIII. 2006 (MLT) 開拓の沢線; 1♀, 15. VIII. 2006 (MLT) 開拓の沢線

Pterolophia (Pterolophia) zonata (Bates, 1873) アトジロサビカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、緒方・大桃 (1985)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。
1♂, 14. VIII. 2002 (LT) 中央線; 1♂, 29. VII. 2003 (GC) ふれあいコース; 1♀, 27. VII. 2006 (GC) 北海道開拓記念館付近; 1♀, 2. VIII. 2006 (MLT) 開拓の沢線; 1♀, 15. VIII. 2006 (MLT) 開拓の沢線

Tribe Saperdini Mulsant, 1840

Cagosima sanguinolenta Thomson, 1864 ハンノキカミキリ

青山 (1986)、佐々木ほか (1993) により記録されている。
1♂, 11. VII. 2001 (LT) 大沢園地、桜井正俊採集

Eutetrappa chrysochloris chrysochloris (Bates, 1879) ハンノアオカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。
1♂, 16. VII. 1999 (GC) 林木育種場; 1♀, 28. VII. 2003 (ミズナラ SWP) 下野幌線、澄川大輔採集

Eutetrappa ocelota (Bates, 1873) ヤツメカミキリ

緒方・大桃 (1985)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

Eutetrappa sedecimpunctata sedecimpunctata (Motschulsky, 1860) シナカミキリ

坂本ほか (1976)、緒方・大桃 (1985)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

Glenea (Glenea) relictata relictata Pascoe, 1868 シラホシカミキリ

坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 29. VII. 2000 (B-アセテート) 大沢口; 1♂, 29. VII. 2003 (LT) 大沢園地

Menesia sulphurata (Gebler, 1825) キモンカミキリ

坂本ほか (1976)、佐々木ほか (1993) により記録されている。

1♀, 2. VIII. 2000 (B-アセテート) 大沢口; 1♂・1♀, 28. VI. 2001 (GC) トド山口; 1♀, 19. VII. 2002 (LT) 大沢園地

Niponostenostola niponensis kanoi (Kano, 1933) カツラカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、田辺 (1980)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994)、堀 (2005) により記録されている。

1♂, 13. VI. 2000 (FIT) ふれあいコース; 1♂, 4. VII. 2001 (LT) 大沢園地; 1♂, 29. V. 2001 (GC) トド山口; 1♀, 13. VI. 2001 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♂, 4. VII. 2001 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♀, 16. VII. 2004 (GC) 北海道博物館付近

Paramenesia theaphia (Bates, 1884) ジュウニキボシカミキリ*

1♂, 5. VIII. 2002 (GC) 中央線南部 [図18y]

Pareutetrappa eximia (Bates, 1884) フチグロヤツボシカミキリ

石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 19. VII. 2000 (GC) 北海道博物館付近; 1♀, 14. VIII. 2002 (LT) 中央線南部; 1♀, 25. VI. 2015 (GC) 北海道開拓の村 ホオノキ葉上

Saperda subobliterata Pic, 1910 ニセヤツボシカミキリ

坂本ほか (1976)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993) により記録されている。 1♂, 2. VIII. 2000 (B-アセテート) 大沢口; 1♀, 24. VI. 2006 (MLT) 開拓の沢線

Matsushita (1933) がNopporoから記録した*Saperda octomaculata* Blessig, 1873 ヤツボシカミキリの記録があるが、本種は北海道の未分布種と考えられ、ニセヤツボシカミキリの誤同定と考えられる。

Tribe Xenoleini Lacordaire, 1873

Hirtaeschopalaea nubile (Matsushita, 1933) エゾナガヒゲカミキリ

緒方・大桃 (1985)、佐々木ほか (1993)、石浜・国元 (1994) により記録されている。

1♀, 15. VI. 2014 (GC) 北海道博物館付近; 1♀, 25. VI. 2020 (GC) 北海道博物館付近; 1♂・1♀, 25. VI. 2020 (GC) 北海道博物館付近でニガキ衰弱木幹上で交接ペアを確認 [図17]

Family DISTENIIDAE Thomson, 1861 / ホソカミキリムシ科

Tribe Disteniini Thomson, 1862

Distenia gracilis gracilis (Blessig, 1872) ホソカミキリ

Matsushita (1933)、坂本ほか (1976)、渡辺 (1981)、青山 (1986)、佐々木ほか (1993)、堀 (2005) により記録されている。

1♀, 2. VIII. 2000 (FIT) 北海道開拓記念館東側; 1♀, 23. VIII. 2000 (FIT) 百年橋吊下げ; 1♂, 14. VIII. 2002 (LT) 中央線南部

6 考察

野幌森林公園の文献調査により、2022年までに確認されたカミキリムシは128種が確認された。筆者が野幌森林公園で昆虫類の野外調査を実施した1987年から2022年までの36年間に総計102種のカミキリムシを確認した。確認種のうち、リストに*印を記したミヤマドリハナカミキリ、ハネビロハナカミキリ、ヒメマルクビヒラタカミキリ、オオマルクビヒラタカミキリ、ヒメスギカミキリ、トラフカミキリ、ジュウジクロカミキリ、ゴマダラカミキリ、ヤハズカミキリ、ジュウニキボシカミキリの10種は、野幌森林公園からこれまでに記録のない初記録種である。文献記録と標本データにより、野幌森林公園で確認されたカミキリムシは総計138種となった。

北海道のカミキリムシ相と比較するため、佐々木・林田(1993)の「北海道大学雨龍地方演習林朱鞠内湖周辺地域のカミキリ相」の分布型と野幌森林公園で確認されたカミキリ相の比較を行った。カミキリムシの分布型は主に日本鞘翅学会(1984)の図鑑の分布をベースに朱鞠内のカミキリ相を荒木ほか(1988)「留萌支庁苫前町の甲虫(第1報)」の苫前町、荒木ほか(1989)「東川町江卸及びその周辺におけるカミキリムシ科の採集記録」の東川の3地域での記録種を比較したものである。記録されたカミキリムシを次のI~V群に分類している。

- I サハリン・シベリアなどに分布し、北海道がその分布の南限(日本における北海道特産種)
- II サハリン・シベリアなどから北海道を経て本州の山岳地帯まで分布
- III サハリン・シベリアなどに分布し、北海道を経て本州以南まで広く分布
- IV 北海道と本州の山岳地帯に分布し、北海道がその分布北限
- V 本州以南まで分布し、北海道がその分布北限

野幌森林公園を含めた4地域のカミキリムシの分布型を表-1に示す。分布型の比較では、道内で最も北側の朱鞠内湖周辺では、北方系のI型が20.3%で最も割合高く南方系のV型が35.4%と割合が低い。一方、道内で比較的南部に位置する野幌森林公園では記録種が138種と多く、I型が2.9%と少なく、V型が67.4%と非常に多くを占めていた。そのことから、野幌森林公園のカミキリムシ相は、道内の他の3地域に比べて、本州以南の南方から入って来た種がより優占している地域と考えられる。

7 おわりに

ここからは定量的なサンプリングではないため、長年野幌森林公園で昆虫調査を継続してきたカミキリムシ相についてフィールドワークで感じていることを記す。

一つは道内各地のPT(ピットフォールトラップ)調査では、後翅が退化していて飛翔することのできないアカガネカミキリが地表を徘徊するため頻りに捕獲される。しかし、野幌森林公園で20年以上PTによるモニタリング調査を実施しているが、本種はこれまでに1個体も捕獲されていない。生息していないことを証明するのは難しいが野幌森林公園にアカガネカミキリが分布していない可能性は非常に高いと考えられる。

野幌森林公園には季節毎に多くの昆虫が集まる花が開花する。初夏のオオハナウドやオニシモツケ、夏のクリ、ツルアジサイ、ノリウツギ、ヨツバヒヨドリなどの花には、多くのハナカミキリ類が集まる光景が2000年以前は日常の光景であった。花の写真を撮影している際に、次から次へと新たなハナカミキリ類が飛来する体験を過去に何度もしている。しかし、ここ10年ほどはその姿が見られなくなってきている。ハナカミキリの活動シーズンにカメラ持ってカミキリムシが好む満開の花を観察しても、ハナカミキリ類が1個体も見つからないことが多い。おそらく、過去に多くの記録の残されているタケウチホソハナカミキリは筆者の野外調査では確認できな

表1 北海道内4地域のカミキリ相の比較

分布型	野幌		朱鞠内		苫前		東川	
	種数	%	種数	%	種数	%	種数	%
I	4	2.9	16	20.3	6	7.7	9	7.7
II	9	6.5	10	12.7	8	10.3	16	13.7
III	27	19.6	21	26.6	28	35.9	31	26.5
IV	5	3.6	4	5.1	3	3.8	5	4.3
V	93	67.4	28	35.4	33	42.3	56	47.9
計	138	100	79	100	78	100	117	100

かったことから、非常に減少してきている種と考えられる。その他にもヨツスジハナカミキリやヤツボシハナカミキリ、フタスジハナカミキリ、マルガタハナカミキリなど、これまで普通種と呼ばれて多産していた種も急速にその生息数が激減してきていることを感じている。

今後の変化を注意深くモニタリングしていくとともに、それらの減少要因の解明が求められる。引き続き、野幌森林公園の生物インベントリーのさらなる解明が重要と考える。

謝辞

野幌森林公園のカミキリムシ相調査に際し、調査協力をいただいた、池田貴夫氏、江坂真弥氏、大野雅英氏、桜井正俊氏、澄川大輔氏、野村昭英氏、濱本真琴氏、水島未記氏、宮田達美氏。標本や情報の提供いただいた皆様に厚くお礼申し上げる。

なお、本研究は北海道博物館の「道民・地域との連携・協働による地域情報集積プロジェクト」のひとつ「野幌森林公園の生物インベントリー調査」の一環として実施された。

引用文献

- 青山慎一 1986. 灯火に飛来したカミキリムシ. ちくばきぎり 1: 91 - 92.
- 青山慎一 1987. タテジマホソハナカミキリの採集記録. jezoensis 14: 61.
- 荒木哲・佐々木恵一・菅原豊・鈴木敏春・西田貞二・宮田達美 1989. 東川町江卸及びその周辺におけるカミキリムシ科の採集記録. jezoensis 16: 78 - 88.
- 荒木哲・松本英明・西田貞二・佐々木恵一・鈴木敏春 1988. 留萌支庁苫前町の甲虫 第1報. jezoensis 15: 81 - 94.
- 江坂真弥・大野雅英 2009. ハクウンボクより得られた甲虫類数種の記録. jezoensis 35: 77 - 78.
- 藤沢豊一 1979. *Pachypidonia* を採集. 蝦夷白蝶 10: 36.
- 藤田宏・平山洋人・秋田勝己 2018. 日本産カミキリムシ大図鑑 (1): 324pp. むし社.
- Hasegawa, M.・Ohbayashi, N. 2001. A Revisional study on the genus *Miccolamia* of Japan. Coleoptera, Cerambycidae, Lamiinae. Jpn. J. syst. Ent. 7: 1 - 28.
- 林匡夫・木元新作・森本桂 1984. 原色日本甲虫図鑑IV. 438pp. 保育社.
- 北海道環境生活部自然環境局 2019. 【種・亜種目録】北海道の Kouchuu. https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/2/2/8/4/9/7/2/_/syuasumokuroku_konchu.kouchu.pdf
- 堀繁久 2002. 野幌森林公園のゲンゴロウ相. 北海道開拓記念館紀要 30: 1 - 12.
- 堀繁久 2002. 野幌森林公園の甲虫相調査. 昆虫と自然 37 (12): 9 - 13.
- 堀繁久 2003. 都市孤立林のオサムシ科甲虫群集の特性. 北海道開拓記念館紀要 31: 15 - 28.
- 堀繁久・水島未記・永安芳江 2003. 平地森林の生物インベントリー調査と環境指標種の検討. 北海道開拓記念館調査報告 42: 103 - 104.
- 堀繁久 2005a. 野幌森林公園へ侵入した外来昆虫. jezoensis 31: 65 - 68.
- 堀繁久 2005b. 森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本1 (鞘翅目). 北海道開拓記念館調査報告 44: 9 - 50.
- 堀繁久・桜井正俊 2006. 森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本2 (鱗翅目). 北海道開拓記念館調査報告 45: 9 - 62.
- 堀繁久・広永輝彦 2007. 森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本3 (双翅目). 北海道開拓記念館調査報告 46: 1 - 16.
- 堀繁久・山本亜生 2008. 森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本4 (半翅目). 北海道開拓記念館調査報告 47: 1 - 14.
- 堀繁久 2008. 森を飛ぶゴミムシと這うゴミムシ. 昆虫と自然 43 (11): 15 - 19.
- 堀繁久・水島未記・濱本真琴・扇谷真知子 2008. 野幌森林公園の生物インベントリー調査. 北海道開拓記念館だより 38 (2): 4.
- 堀繁久・佐山勝彦・小西和彦 2009. 森林総合研究所所蔵の古い野幌産昆虫標本5 (膜翅目). 北海道開拓記念館調査報告 48: 1 - 22.
- 堀繁久・富川徹・佐藤雅彦 2011. 野幌森林公園の野鳥から確認されたシラミバエ. jezoensis 37: 89 - 90.
- 堀繁久 2012. オサムシ科甲虫群集を利用した森林環境モニタリング. 北海道開拓記念館紀要 40: 1 - 20.
- 堀繁久 2013. 野幌森林公園で観察したウラキンシジミ幼虫の落下傘降下について. jezoensis 39: 77 - 86.
- 堀繁久・大野雅英 2014. 西尾美明氏採集の野幌産甲虫標本について. jezoensis 40: 86 - 89.
- 石浜宣夫・国本晋輔 1994. 北海道産カミキリムシ科採集記録. 蝦夷白蝶 15: 1 - 77.
- Matsushita, M. 1933. Beitrag zur Kenntnis der Cerambyciden des Japanischen Reichs. J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 34. 2. : 157 - 445.
- 森正人 1980. 札幌近郊のカミキリムシについて. jezoensis 7: 123 - 124.
- 森正人・浅野正信・岡本宗裕 1986. 北海道産カミキリムシの分布 (1). ちくばきぎり 1: 1 - 51.
- 棟方啓明 1961. 特集・北海道南部のカミキリ. エゾシロ 25: 1 - 27.
- 長瀬良一・石田浩司 1970. 札幌産 Beetles (甲虫類) について (II) カミキリムシ科. HORNET 8: 1 - 38.
- 永安芳江・堀繁久・伊藤富子・久原直利 2003. 野幌森林公園のトビケラ相. 北海道開拓記念館調査報告 42: 105 - 113.
- 永安芳江・伊藤富子・大川あゆ子・堀繁久 2005. 野幌森林公園のトビケラ相 II. 北海道開拓記念館調査報告 44: 51 - 60.
- 日本鞘翅学会 1984. 日本産カミキリ大図鑑. 566pp. 講談社.
- 大林延夫・新里達也 2007. 日本産カミキリムシ: 818pp. 東海大学図書出版会.
- 緒方靖哉・大桃定洋 1976. 北海道でのカミキリ採集. 北九州の昆虫 22 (3): 85 - 94.
- 緒方靖哉・大桃定洋 1985. 北海道採集報告. 北九州の昆虫 32 (3): 133 - 140.
- 大林延夫・新里達也 2007. 日本産カミキリムシ. 818pp.
- 斎藤龍司 1983. 1979~83年道内各地における蝶・甲虫の採集報告. jezoensis 10: 25 - 28.
- 坂本与市・門崎允昭・城生吉克・本田和義 1975. 野幌森林公園の昆虫類 (蜻蛉目). 北海道開拓記念館調査報告 10: 1 - 9.
- 坂本与市・門崎允昭・田村茂 1976. 野幌森林公園の昆虫類II (鱗翅目). 北海道開拓記念館調査報告 11: 3 - 41.

- 坂本与市・門崎允昭・渡辺潔 1976. 野幌森林公園の昆虫類III (鞘翅目). 北海道開拓記念館調査報告 11: 43 - 80.
- 坂本与市・高篠文明・長坂芳人・門崎允昭 1977. 野幌森林公園の昆虫類IV(半翅目). 北海道開拓記念館調査報告 13: 1 - 10.
- 佐々木恵一・林田光祐 1993. 北海道大学雨龍地方演習林朱鞠内湖周辺地域のカミキリムシ相. 北海道大学農学部演習林研究報告 50: 229 - 243.
- 佐々木恵一・長尾康・鈴木敏春 1993. 北海道のカミキリ科の分布について. *jezoensis* 20: 49 - 163.
- 市立函館博物館 1986. 市立函館博物館蔵品目録6動物篇II 動物標本: 104 - 121.
- 鈴木茂 1991. 札幌市及びその周辺で採集した甲虫類. *jezoensis* 18: 49 - 53.
- 鈴木茂 1976. データによる北海道産天牛虫の分布リスト. 蝦夷白蝶 6(1): 39 - 70.
- 鈴木茂. 2022. 日本列島の甲虫全種目録. 2022年. <https://japanesebeetles.jimdofree.com/>
- 田辺秀男 1979. 北海道の昆虫. 301pp. 北海道新聞社.
- 田辺秀男 1980. 続北海道の昆虫. 301pp. 北海道新聞社.
- 渡辺英行 1979. 道東カミキリ採集行. 蝦夷白蝶10: 89 - 100.
- 渡辺英行 1981. 北海道に於けるカミキリムシの採集目録. 蝦夷白蝶 11: 41 - 72.



図2 地面設置型透明アクリル板FIT (樹洞入口に設置)



図3 地面設置型大型ビニールFIT



図4 吊下げ型アクリル板十字FIT



図5 吊下げ型アクリル板十字FITで捕獲された昆虫



図6 橋から樹冠上に設置したFITと誘引トラップ



図7 林内に設置した誘引トラップ



図8 林内に設置したMLT (マレーズトラップ)



図9 水銀灯を使用したライトトラップ



図10 ノリウツギに訪花するヨツスジハナカミキリ



図11 エゾアジサイに訪花するマルガタハナカミキリ



図12 トドマツ樹に産卵行動中のオオマルクビヒラタカミキリ



図13 オオカメノキに訪花するシロトラカミキリ



図14 ヤマガワ幹で交接するトラフカミキリ



図15 ナナカマド枯死木にとまるヒトオビチビカミキリ



図16 ナナカマド枝先のリンゴカミキリ幼虫加害痕



図17 ニガキ衰弱木で交接するエゾナガヒゲカミキリ

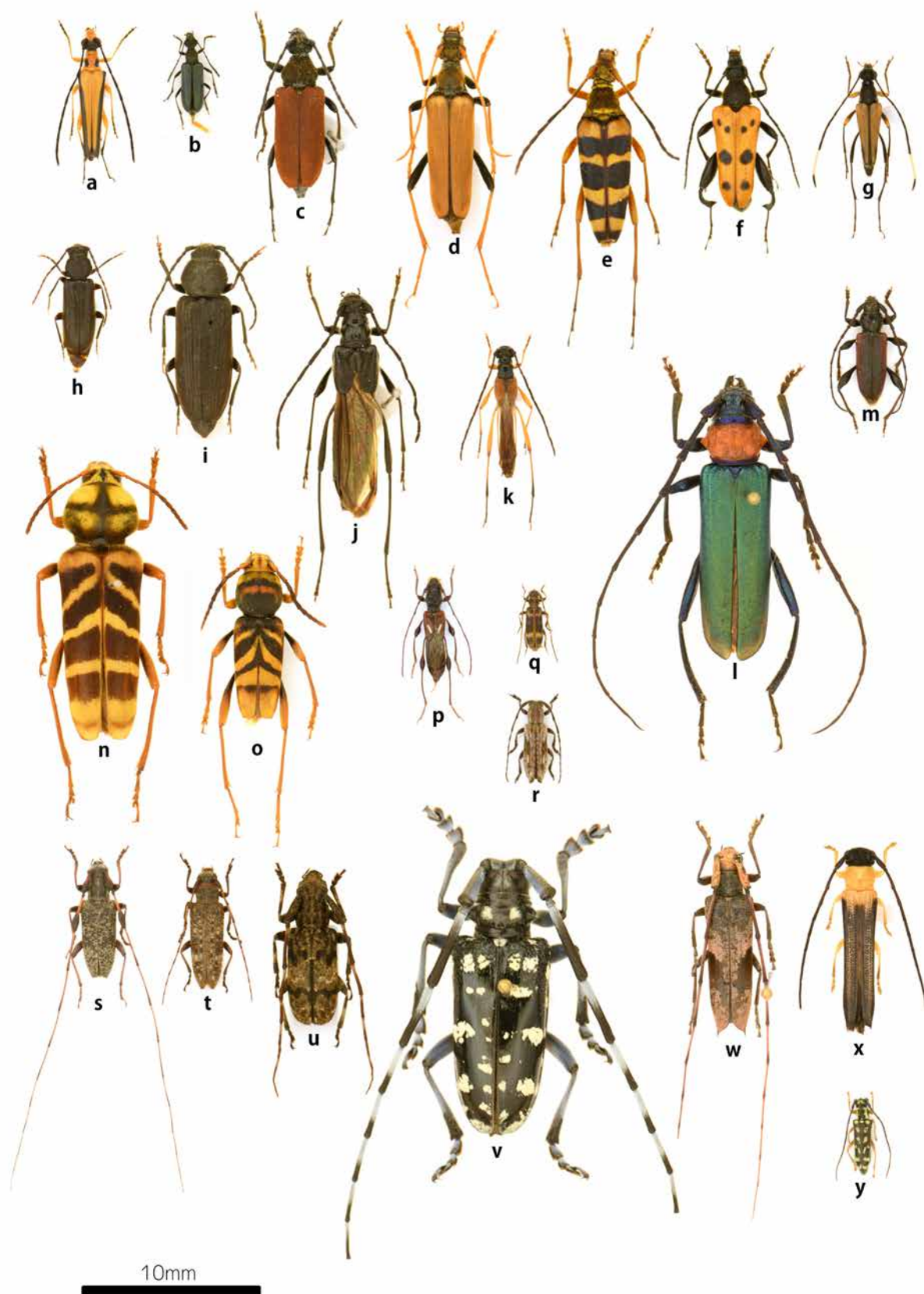


図18 野幌森林公園で確認されたカミキリムシ

a: *Eustrangalis distenioides*, b: *Kanekoa azumensis*, c: *Konoa granulata*, d: *Leptura latipennis*, e: *Leptura ochraceofasciata*, f: *Oedechnema gebleri*, g: *Parastrangalis tenuicornis*, h: *Asemum punctulatum*, i: *Asemum striatum*, j, k: *Necydalis pennata*, l: *Aromia moschata orientalis*, m: *Callidiellum rufipenne*, n: *Xylotrechus villioni*, o: *Xylotrechus chinensis chinensis*, p: *Molorchus minor fuscus*, q: *Clytosemia pulchra*, r: *Mimectatina divaricata divaricata*, s: *Rhodopina lewisii lewisii*, t: *Sybra unifasciata*, u: *Mesosa longipennis*, v: *Anoplophora malasiaca*, w: *Uraecha bimaculata bimaculata*, x: *Oberea japonica*, y: *Paramenesia theaphia*

Cerambycid Fauna in Nopporo Forest Park

HORI Shigehisa

As of 2022, insect fauna studies have identified 128 species of Cerambycidae (longhorn beetles) in Nopporo Forest Park. During the 36 years from 1987 to 2022, in which the author was involved in insect studies in Nopporo Forest Park, field studies have found 103 beetle species of the Cerambycidae family, and 10 new species of Cerambycidae from Nopporo have been cataloged. From literary records and specimen data, a total of 138 species of Cerambycidae have been found in Nopporo Forest Park.

Comparing Cerambycid fauna populations from various areas of Hokkaido, we found that those in Nopporo Forest Park are composed of

lower ratios of northern species than those of other Hokkaido regions, with southern species accounting for a remarkably large 67.4%. Our findings show that invading species from Honshu and further south have exerted dominance here.

Ongoing long-term insect studies at Nopporo Forest Park have revealed that changes in Cerambycid fauna have caused a sudden, drastic drop in the population of prolific Lepturinae species, which had been considered common species. In future, it will be necessary to carefully monitor changes in fauna while identifying causes of population decrease. Efforts to further understand Nopporo Forest Park's bioinventory will remain a priority.